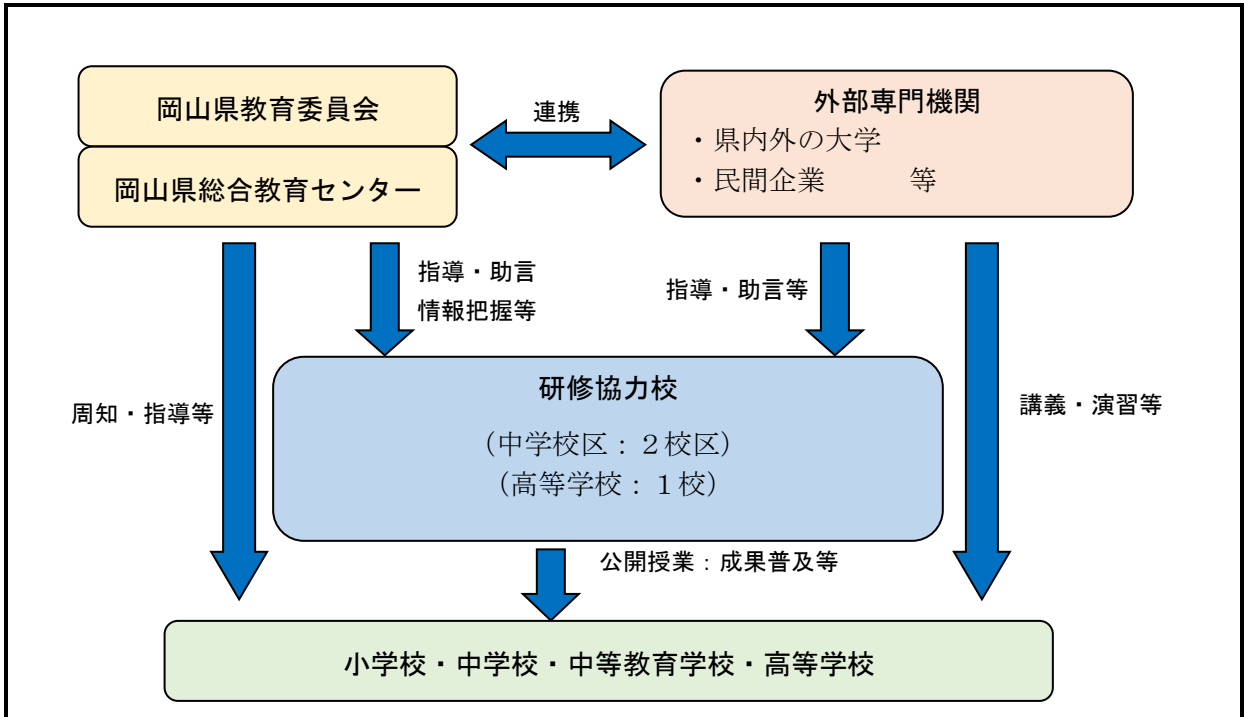


岡山県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

【小学校】

① 小学校教員採用

小学校教員の新規採用に当たっては、一定の資格を有する者を対象とした英語枠による採用を実施するとともに、英検準1級等の資格による加点制度、英語を母語とする者を対象とした特別選考等の実施により、高い英語力を有する者の出願、採用につなげ、目標管理書に示す目標値の達成を目指す。

② 学習到達目標の整備状況（令和3年1月現在）

	2020年度の目標	2020年度の達成状況
設定	80%	県として把握していない
公表	45%	96.2%（予定20.9%を含む）
達成状況の把握	65%	99.0%（予定9.8%を含む）

※「公表」は「児童へ公表しているか」という問いに対する回答

③ 目標達成に向けて2020年度に実施した小学校教員に対する研修等

研修名	実施回数	受講者数
小中連携研究実践校授業公開	2回	121人(中学校も含む)
小学校オンライン・オフライン研修実証事業	オンライン	65人
小学校英語専科教員研修会(参集、資料共有)	2回	27人
合計	4回	213人

(成果)

2020年2月に実施した「小学校CAN-DOリスト説明会及び評価説明会」（参加者：263名）の感想に、「CAN-DOリストを児童と共有する意義が分かった」というものが多く、その成果として「公表」「達成状況の把握」の数値が高くなったと捉えている。

小中連携研究実践校（【中学校】の部分で詳細を述べる）においては、「他教科でもCAN-DOリストを使うことを考えたい。」という感想があり、活用の意義が伝わったと捉えている。

(課題)

今年度、当初の数値目標を大幅に超えて達成することができた。しかし、実際に有効利用されているかについては、まだ課題があるという声も多い。県としても、新型コロナウイルス感染症の影響により、小学校英語専科研修も新任者のみを対象にしたり、小中連携研究実践校も参観者を制限したりしたことで十分に意義を伝達できなかった面があると考えている。

来年度は、実際の授業を見る機会や実際に研究に取り組んだ先生方の声を広く周知し、先生方の CAN-DO リストを活用して授業改善をすすめる意識を高めていく必要がある。

【中学校】

①学習到達目標の整備状況

○2019年度までの達成状況：

設定：100%、公表：28.2%、達成状況の把握：53.8%

○実施した手立て：

- ・英語教員指導力向上研修（3年間悉皆）において、CAN-DO リストの意義について説明し、設定したリストの活用を呼びかけた。
- ・研修協力校（2校区）において、CAN-DO リストを活用した授業改善に、小中連携で取り組み、研究成果を公開授業と CAN-DO リストと振り返りシートの提供により普及した。

○成果と課題

(成果)

- ・研修協力校において、単元ごとに CAN-DO リストを設定し、振り返りシート形式で児童生徒と共有し、主体的に学習に取り組む態度を育成する研究に取り組み、CAN-DO リストの活用の意義を公開授業を通して具体的に伝えることができた。
- ・研修協力校で作成した CAN-DO リストと振り返りシートを県内で共有し、参考活用できる体制を作ることができた。

(課題)

- ・CAN-DO リストの公表と把握の改善が進まないのは、CAN-DO リストを活用する意義を教員がまだ十分に理解していないためと考える。令和2年度の研修協力校の研究成果を踏まえ、「目標・指導・評価の一体化」の視点で CAN-DO リストの具体的な活用方法を示す必要があると考える。効果的な普及の工夫として具体例をよりわかりやすく示す資料作成が必要である。

○目標を達成するための具体的な手立て

・2022年度までの目標：

設定：100%、公表：55%、達成状況の把握：75%

・具体的な手立て：

- * 研修協力校での研究と公開授業（英語教育改善プラン推進事業で実施予定）
- * 研修協力校の研究成果を公開授業と成果発表会により普及する。
- * 英語教員指導力向上研修（3年間悉皆）において、研究成果を踏まえた周知徹底を図り、活用状況を取組状況調査により把握する。

②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

③パフォーマンステストの実施状況

④英語担当教員の授業における英語使用状況

○2019年度までの達成状況：

②-72.3%

③-スピーキングテスト 3.3回/年、ライティングテスト 3.1回/年

④-72.6%

- ・②、③、④いずれも横ばい状況である。

○実施した手立て

- ・中学校英語指導力向上研修により、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善や効果があった取組事例を参考にした具体的な授業改善の推進を図った。

○成果と課題

(成果)

- ・3年間悉皆方式で研修を実施してきたので、全教員が新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善や定期考査改善について共通認識をもつことができた。

(課題)

- ・パフォーマンステストはほとんどの学校においてなされてきているが、その位置づけや実施時期、評価の仕方、内容等不十分な状況にあるのではないかと考えられる。目標と指導と評価の一体化への理解と実践は不十分である。

○目標を達成するための具体的な手立て

- ・2022年度までの目標：

②-78%

③-スピーキング・ライティングテスト各4回

④-78%

- ・具体的な手立て：

*研修協力校において、パフォーマンステストの実施に関する研究を行い、その成果を県内へ周知する。

*中学校英語指導力研修講座での周知徹底

⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合

○2019年度までの達成状況：44.3%

- ・2017年度からの3年間で13.9ポイント(30.4%→44.3%)上昇したが、目標値の45%には達していない。

○実施した手立て

- ・「中学校英語教員パワーアップ研修」を開催し、新学習指導要領の趣旨を踏まえた英語での授業実践に役立つ指導力向上のための研修と教員自身の英語力向上のための自学による研修を実施し、英語力を把握するためのTOEIC IPテストを実施した。

○成果と課題

(成果)

- ・研修を通し、授業を実際のコミュニケーションの場面とするために自身の英語力を向上させる意義を再認識し、授業での具体的な指導の在り方を体験的に学び、授業改善への意欲向上が見られた。
- ・集合研修とオンライン研修を組み合わせることにより、指導力向上のために英語力向上が不可欠であることを改めて認識し、自己学習への意欲を高めたり、研修での学びを実際の授業に生かす報告が聞かれた。

(課題)

- ・教員の英語力向上は、指導力向上と並行して取組を継続する必要があるため、今後も継続的に研修を実施するとともに、学びを授業に生かした実践を研修の中に位置づける等の仕組みづくりが必要である。

○目標を達成するための具体的な手立て

- ・2022年度までの目標：53%

- ・具体的な手立て：

*中学校英語教員パワーアップ研修

*外部検定試験受験支援

⑥求められる英語力を有する生徒の割合

○2019年度までの達成状況：44.4%

- ・目標値の56.6%には達していないが、2017年度からの3年間で4.2ポイント(40.2%→44.4%)上昇した。

○実施した手立て

- ・生徒の英検等の外部検定試験の積極的な受験の推進が図られるよう、市町村教育委員会、学校を通じて周知した。
- ・県内モデル校で GTEC 受検を実施し、生徒の 4 技能の英語力を把握するとともに、教師の指導改善に活用した。
- ・研修協力校の公開授業により、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の普及を図り、授業への助言を通し、授業改善の方向性を示した。

○成果と課題

(成果)

- ・ 7 市 3 町 1 村 (全体の 42.3%) が生徒の受検補助を実施し、積極的な受検を促した。また、GTEC 実施のモデル校では、前年度までの県内実践校の好実践を生かした授業改善が進んだ。
- ・ 研修協力校において、学習指導要領の趣旨を踏まえ、CAN-DO リストを活用した授業改善に小中連携で取り組んだ好実践を県内に普及することができた。(次項目で詳細を述べる)

(課題)

- ・ 市町村により生徒の受検補助の取組の差がある。
- ・ 研修協力校の取組は全英語教員への普及に至っていないため、研修協力校を増やす等により、全教員へ効果的に周知する工夫が必要である。

○目標を達成するための具体的な手立て

- ・ 2022 年度までの目標：63%
- ・ 具体的な手立て：
 - * 市町村教育委員会学校教育主管課長会議等での受験機会の創設の呼びかけ
 - * 研修協力校の好実践等を映像資料として普及に活用

【高等学校】

①求められる英語力を有する英語担当教員の割合

○2019 年度までの達成状況：85.1%

- ・ 目標値の 75%には達しているが、2018 年度から 0.9 ポイント (86.0%→85.1%) 下降した。

○実施した手立て

- ・ 2017、2018 年度の 2 年間、「高等学校等教員英語指導パワーアップ研修」を開催し、教員の英語指導力と自身の英語力向上のための研修と、成果検証として TOEIC IP テストを実施した。また、2020 年度は研修や説明会等において結果を周知するとともに、教員の定期的な英語力測定を促した。

○成果と課題

(成果)

- ・ 研修を通し、新学習指導要領で求められる「授業を英語で行うことを基本とする」や「授業を実際のコミュニケーションの場面とする」ために自身の英語力を向上させる意義を再認識し、自己研鑽への意欲向上が見られた。

(課題)

- ・ 目標値には達成しているが、臨時的任用教員の入れ替わり等により 2019 年度は数値が下降している。継続的に取組を行うことで、水準の維持を図りたい。

○目標を達成するための具体的な手立て

- ・ 2022 年度までの目標：80%
- ・ 具体的な手立て：
 - 外部検定試験受験支援 (英語教育改善プラン推進事業で実施予定)

②求められる英語力を有する生徒の割合

○2019 年度までの達成状況：46.8%

- ・ 目標値の 56.6%には達していないが、2017 年度からの 3 年間で 2.3 ポイント (44.5%

→46.8%) 上昇した。

○実施した手立て

- ・生徒の英検等の外部検定試験の積極的な受験の推進が図られるよう、研修や説明会等において周知した。
- ・研修協力校の公開授業により、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の普及を図り、大学講師による、授業への助言を通し、授業改善の方向性を示した。

○成果と課題

(成果)

- ・外部検定試験を受験したことがある生徒の割合が、2018年度の48.9%から2019年度には53.3%と4.4ポイント上昇しており、外部検定試験の受検機会が増加している。
- ・研修協力校において、指導教諭や英語教育推進リーダーが中心となり、英語科全員で授業研究を進めた。また、公開授業において新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業のモデルを示すことで成果普及を行った。

(課題)

- ・その他の専門学科及び総合学科における外部検定試験を受験したことがある生徒の割合はほぼ横ばいであり、引き続き受験の推進が求められる。

○目標を達成するための具体的な手立て

- ・2022年度までの目標：66.6%
- ・具体的な手立て：
研修協力校での研究・公開授業

③学習到達目標の整備状況

○2019年度までの達成状況：

- 設定：100%
- 公表：20.2%
- 達成状況の把握：53.6%

○実施した手立て：

- ・新教育課程岡山県説明会や岡山県高等学校教育研究会英語部会の各種行事等において、CAN-DOリストの意義について説明し、設定したリストの活用を呼びかけた。

○成果と課題

(成果)

- ・趣旨を理解し、CAN-DOリストの授業における活用を推進する学校が増加した。

(課題)

- ・CAN-DOリストの公表(20.2%)と把握(53.6%)が大きく改善しないことから、生徒の英語力を向上させるために必要な「目標・指導・評価の一体化」の教員個人あるいは学校全体の理解が進んでいないことや、設定自体が形骸化していることが原因であると考えられる。実情に合ったリストの見直しと、パフォーマンステストを含めた計画的な評価の在り方を確立することが必要である。

○目標を達成するための具体的な手立て

- ・2022年度までの目標：
設定：100%
公表：70%
達成状況の把握：70%
- ・具体的な手立て：
研修協力校での研究・公開授業
新教育課程岡山県説明会等において、引き続き周知徹底を図る。

④生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(A)、パフォーマンステストの実施状況(B)、英語担当教員の授業における英語使用状況(C)

○2019年度までの達成状況：

A-79.2%

B-スピーキングテスト0.7回/年（全科目）、ライティングテスト平均2.5回/年（全科目）

C-81.2%

- ・Aについては2018年度から0.5ポイント上昇した。Bについては概ねスピーキングテストが減少し、ライティングテストが上昇した。Cについては2018年度から5.4ポイント減少した。

○実施した手立て

- ・英語教育推進リーダーによる研修実習や大学教授による講演等により、新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導法や、効果的なパフォーマンステストに関する具体的な授業改善の推進を図った。

○成果と課題

(成果)

- ・5年間の悉皆方式で研修を実施し、全ての英語担当教員が新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善に取り組むことができた。

(課題)

- ・パフォーマンステストの有用性については伝わっているものの、効果的な実施に向けての方法の具体が明確に理解されていないことから、改善が進んでいないのではないかと懸念している。

○目標を達成するための具体的な手立て

- ・2022年度までの目標：

A-90%

B-スピーキング・ライティングテスト各3回

C-100%

- ・具体的な手立て：

研修協力校での研究・公開授業

(3) 研修の体系と内容の具体

【小学校】

①小学校教員採用

小学校教員の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合の目標値達成のため、2020年度実施の教員採用試験において、英語を母語とする者を対象とした特別選考の出願を小学校に拡大するとともに、勤務経験年数に関する出願条件を緩和する。

②学習到達目標の整備状況について

○設定目標：90%

○公表目標：50%

○達成状況の把握目標：70%

数値目標はすでに達成している。

2021年度は、小中連携研究実践校の授業公開の参観者を増やすことを目指し、オンライン等も効果的に活用する。その中で、CAN-DOリスト活用の良さを普及していく。

③小学校教員に対する研修実施回数及び研修受講者数

○小学校オンライン・オフライン研修実証事業

対 象：県内（岡山市等を除く。）の小学校教員

研修目的・内容：教員の英語力向上

教室英語と指導法について動画から学ぶ。

受講予定者数：50人

研修の評価方法：市町村教委等の学校訪問

○小学校英語専科教員研修会（模擬授業と授業参観を通して体験的に学ぶ研修 3回）

対 象：県内（岡山市を除く。）の小学校英語専科教員等

研 修 目 的：学習指導要領に基づいた授業を体験的に学ぶ。
指導法について協議を行い、授業改善につなげる。

受講予定者数：60人

研修の評価方法：県教委と市町村教委による学校訪問及び授業公開

【中学校】

①学習到達目標の整備状況

③パフォーマンステストの実施状況

⑥求められる英語力を有する生徒の割合

○**研修協力校での研究と公開授業（英語教育改善プラン推進事業で実施予定）**

研修協力校：小中学校連携グループを2グループ研修協力校として設定

研究テーマ：CAN-DO リストを活用した単元計画とつながるパフォーマンステストを中心とした目標・指導・評価の一体化及び小中学校の指導の接続

研究の進め方：大学から有識者を講師として招き、研究について助言を受ける。
小・中学校で CAN-DO リストを踏まえた単元計画とパフォーマンステストを含む評価の在り方を共有し、小中の指導と評価の一体化について研究する。

成果普及：オンラインを活用した授業公開と研究成果の普及

対 象：県内小・中・高等学校英語担当教員

研修目的：教員の指導力向上、生徒の英語力向上

内 容：令和2年度の研修協力校で取り組んだ CAN-DO リストを活用した授業改善を踏まえつつ、目標を見据えた単元計画を立て、身に付けた力をパフォーマンステスト等により評価する方法について、小中学校がともに取組を進めることで、「小中学校の指導の接続」の実現を目指す。そして、その研究成果を普及し、県内全小中学校で指導と評価の一体化が進むようにする。

受講予定者数：200人

研修の評価方法：令和3年度英語教育実施状況調査

②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

④英語担当教員の授業における英語使用状況

○英語教員指導力向上研修講座

対 象：中学校英語教員

研修目的：教員の指導力向上

- ・CAN-DO リストを活用した指導と評価の一体化の授業実践
- ・英語科における情報活用能力の向上に向けた取組実践

内 容：学習指導要領の趣旨、評価等の説明や演習及び大学から有識者を講師として招き、講演を行う。

受講予定者数：130人（悉皆研修1年目／3年計画）

研修の評価方法：アンケート、令和3年度英語教育実施状況調査

⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合

○中学校英語教員パワーアップ研修

対 象：経験の浅い英語教員及びCEFR B2 レベル以上未取得の英語教員

研修目的：教員の指導力と英語力の向上

- ・小学校での学習内容を含む既習事項を効果的に取り入れた言語活動の設定ができる力の向上
- ・授業に生かせる英語力向上のための自己学習法の習得

研修内容 : 民間企業へ委託し、3回の集合研修とオンライン研修を組み合わせる。

受講予定者数 : 60人

研修の評価方法 : **TOEIC IP テスト (英語教育改善プラン推進事業で実施予定)**

○外部検定試験受検支援 (英語教育改善プラン推進事業で実施予定)

対象 : 小学校教員、中学校・高校英語担当教員

目的 : 教員の英語力向上、英語力把握

内容 : 英語外部検定試験の受検に係る検定料を補助

受講予定者数 : 各20人

研修の評価方法 : 各種検定

【高等学校】

①求められる英語力を有する英語担当教員の割合

○外部検定試験受検支援 (英語教育改善プラン推進事業で実施予定)

対象 : 小学校教員、中学校・高校英語担当教員

目的 : 教員の英語力向上、英語力把握

内容 : 英語外部検定試験の受検に係る検定料を補助

受講予定者数 : 各20人

研修の評価方法 : 各種検定

②求められる英語力を有する生徒の割合

③学習到達目標の整備状況

○研修協力校での研究と公開授業 (英語教育改善プラン推進事業で実施予定)

研修協力校 : 県立高等学校1校

研究テーマ : CAN-DO リストを活用した目標・指導・評価の一体化

研究の進め方 : 大学から有識者を講師として招き、研究について助言を受ける。
各研修協力校において CAN-DO リストの在り方、活用の仕方を研究し、その成果を、公開授業を通して普及する。

成果普及 : 授業公開と取組の紹介

対象 : 県内高等学校英語担当教員

研修目的 : 教員の指導力向上、生徒の英語力向上

内容 : CAN-DO リストの公表(20.2%)と把握(53.6%)を改善させるために、「目標・指導・評価の一体化」の具体的なイメージを教員個人あるいは学校全体にもたせる。また、設定自体が形骸化しているリストを実情に合わせて見直すため、研修協力校においてパフォーマンステストを含めた計画的な評価の在り方を研究し、普及できるようにする。

受講予定者数 : 80人

研修の評価方法 : 2021年度英語教育実施状況調査

④生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(A)、パフォーマンステストの実施状況(B)、英語担当教員の授業における英語使用状況(C)

○高等学校英語研修講座

対象 : 高等学校英語担当教員

研修目的 : 教員の指導力向上

内容 : 新学習指導要領の趣旨、評価等の説明や演習及び大学から有識者を講師として招き、講義・演習を行う。

受講予定者数 : 50人 (希望研修)

研修の評価方法：アンケート、2021年度英語教育実施状況調査

○指導教諭による公開授業

対 象 : 高等学校英語担当教員

研修目的 : 教員の指導力向上

内 容 : 県立学校に配置された指導教諭が授業を公開し、新学習指導要領の趣旨に沿った授業のイメージを共有することで、効果的な授業研究を推進する。

受講予定者数 : 50人(希望研修)

研修の評価方法：アンケート、2021年度英語教育実施状況調査

○CELT-S コース修了者による公開授業

対 象 : 高等学校英語担当教員

研修目的 : 教員の指導力向上

内 容 : ケンブリッジ大学英語検定機構の英語教授法認定資格である CELT-S コースを修了した英語担当教員が授業を公開し、4技能を統合した指導・評価を取り入れた授業のモデルを示すとともに、研究協議を行い、効果的な授業研究を推進する。

○外国語指導助手との協同授業推進研修会

対 象 : 外国語指導助手の配置校・訪問校の英語担当教員及び希望する域内の小・中学校の英語担当教員等

研修目的 : 教員の指導力向上

内 容 : 協同授業の授業公開とともに、効果的なチームティーチングに関する研究協議を行う。

受講予定者数 : 150人(悉皆研修)

研修の評価方法：研修会報告書、2021年度英語教育実施状況調査

○外国語指導助手の指導力向上研修

対 象 : 岡山県の公立学校で外国語指導助手を配置している学校の英語担当教員

研修目的 : 教員の指導力向上

内 容 : 大学教授等による講義・演習、効果的なチームティーチングに関する実践発表・研究協議を行う。

受講予定者数 : 50人(悉皆研修)

研修の評価方法：アンケート、2021年度英語教育実施状況調査

